

道の駅「田野駅屋」再整備にかかる基本計画 概要版

1. 道の駅「田野駅屋」再整備にかかる背景及び基本計画の方向性と位置づけ

道の駅「田野駅屋」は、平成15年7月に開駅し、20年が経過しましたが、社会情勢の変化やニーズの多様化、インバウンド需要の高まりなど、今後もその役割が増していくものと考えられるほか、現在では道の駅そのものが観光目的の一つであり、地方創生の拠点と位置づけられるなど、その重要性もますます高まってきています。

そのような中、今後の地域・産業振興や観光振興にとって重要な役割を担う道の駅「田野駅屋」のハード面の課題・問題点として、20年経過に伴う施設の老朽化や「直販施設」を含む駅舎全体の空間が狭小であることによる回遊性の低さ、そして何より駐車スペースが不足していることによる入込客数の伸び悩みなどが挙げられます。

以上の背景から、道の駅施設の魅力や利便性の向上を図り、交流人口の拡大、賑わいの創出に寄与することを目指して、道の駅「田野駅屋」の再整備を検討することとなりました。

道の駅「田野駅屋」の再整備においては、道路利用者や町外からの観光客だけに視点ををおいたものではなく「地域の小さな拠点」として、田野町の様々な課題を解決するための機能付加に加えて、子どもからお年寄りなど、あらゆる世代が活躍する舞台となる地域拠点及び地域住民が日常的に集う地域コミュニティの場の提供・整備の実現を目指します。

また、計画が進む「阿南芸芸自動車道」整備は、本町を含む県内全てにおいて事業化となり、将来の全線開通を見据え、道の駅「田野駅屋」が観光の目的地や、道路利用者にとって安芸以東における安心して休憩できる場(高速道路のサービスエリア)となるよう、早期のリニューアルオープンを目指すものであります。

基本計画は、基本構想を基にして、想定される多様な利用者の目線を統合し、導入機能などの整備方針を示すとともに、事業手法の検討を加え、今後の事業の進め方を整理することを目的としています。

2. 再整備のコンセプト・基本指針

【再整備のコンセプト】
集い・学び・楽しみながら
あらゆる世代が活躍できる道の駅



【基本指針】

- 集う ⇒ 田野町で町民や来訪者が地域を越えて交流できる道の駅
- 学ぶ ⇒ 田野町で学習でき・中芸エリアの魅力や学び・学び合いができる道の駅
- 楽しむ ⇒ 田野町で日常的・非日常的な買い物・飲食が体験できる道の駅

3. 施設整備の指針

1. 地域に開かれ、過ごす場所

ドライバーの休憩所としてだけでなく、地域の人々が日常的に訪れ、「過ごす」場所となることを目指します。

整備方針

道の駅を観光客だけでなく、地域の人々が日常的に訪れ、「過ごす」場所としてつくるのが大切であるという方針が見えたことから、具体的には以下の整備を検討していきます。

- ①アクセスしやすい道の駅
- ②まとまった広い公園
- ③居心地の良い場所づくり

2. 駅を中心とした、地域の新しい拠点

鉄道駅と道の駅が一体的に整備できる特色を活かし、「地域の小さな拠点」として新しいまちの中心地となることを目指します。

整備方針

「地域の小さな拠点」としてあらゆる世代が活躍する舞台となることを目指します。さらには鉄道駅と道の駅が一体的に整備できる特色を活かし、新しいまちの中心地としての役割を担えるように以下の整備を検討していきます。

- ①人が主役の駅前広場
- ②交通の結節機能を維持

3. 地域の安心をつくる

地域にとっても安心な環境をつくり、持続可能な社会に貢献し、周囲にも波及効果が生まれる場所を目指します。

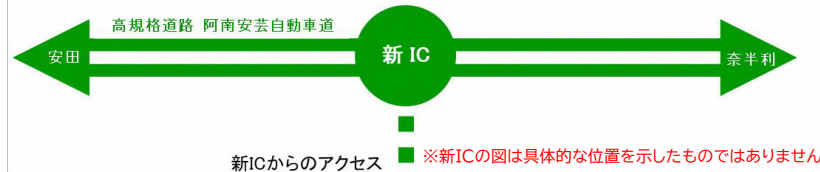
整備方針

再整備においては、地域の持つ課題に対して複合的に取り組める機会となる。整備を通して地域にとって安心な環境をつくれるよう、多面的な減災効果、さらには地球環境問題にも配慮した施設整備を検討していきます。

- ①雨水貯留機能を兼ねた公園と駐車場
- ②高台避難経路となる遊歩道
- ③脱炭素社会へ向けた木材利用

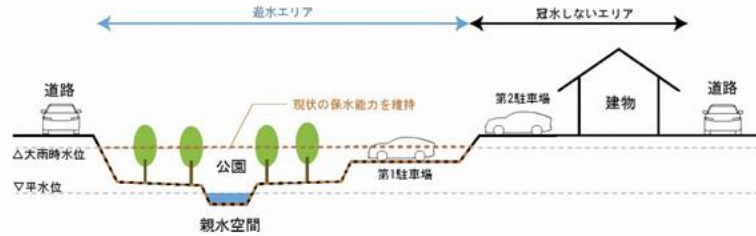
4. 計画地の位置

再整備にあたっては国道55号沿いのこれまでの田野駅屋の立地の良さを引き続き活かしつつ、高規格道路開通、IC整備による他地域からの田野町への来訪ルートの変化など、今後起こりうる時代の変化にも対応できるよう、土佐くろしお鉄道の高架の北側の後背地に目を向けた敷地の拡張を検討していきます。



5. 排水対策

拡張敷地を含む周辺地域は、上下流ともに勾配は少なく、大雨時に田畑が浸水している状況であり、ここに駐車場等を整備する場合は、調整地などの内水対策が必要となります。一方、本計画区域はほぼ平坦な水田で、その高さは下流水路の天端高より数十cm程度低いことから、現地に調整地を設けることは困難であります。また、下流の流出能力も乏しく、小規模河川を通じてすぐ海に面しており、潮位によるバックウォーター(逆流)の影響も受けている状況を勘案すると、本計画区域の一部を大雨時の遊水地として機能させ、現状の内水対策とすることが適切であると想定しています。



道の駅「田野駅屋」再整備にかかる基本計画 概要版

6. 導入機能(規模)のイメージ

1つ1つの機能について、基本計画策定時において整備することを決定するものではなく、今後において事業化を進めるにあたっては、民間事業者へのさらなるサウンディング調査や庁内での検討を踏まえて、絞り込みを行い、決定していきます。

区分	施設	整備面積(屋内)	整備面積(屋外)
道の駅の基本機能	①駐車場		4,000㎡
	②トイレ	220㎡	
	③情報提供コーナー・休憩所	140㎡	
人を呼び込む機能	④飲食施設	190㎡	
	⑤カフェスペース・イートイン	120㎡	
	⑥直販施設	160㎡	
	⑦チャレンジショップ・アンテナショップ	50㎡	
	⑧イベントスペース		700㎡
	⑨宿泊施設	300㎡	
	⑩公園・緑地		7,000㎡
町民に向けた機能	⑪子育て支援施設	300㎡	
	⑫地域コミュニティ施設	120㎡	
	⑬加工場・調理室	80㎡	
災害対策機能	⑭防災倉庫	100㎡	
	⑮遊水地	駐車場の一部・公園の一部を兼ねる	
	⑯高台避難路(遊歩道)	公園を含む	
交通結節機能	⑰駅前広場		500㎡
	⑱駐輪場・レンタサイクル		20㎡
	⑲バス停(コミュニティバス)	駐車場の一部	
その他の機能	事務室	50㎡	
	バックヤード	250㎡	
計画面積(合計)		約2,100㎡	約13,000㎡

※基本計画策定時において、上記の機能(施設)の整備を決定するものではありません。

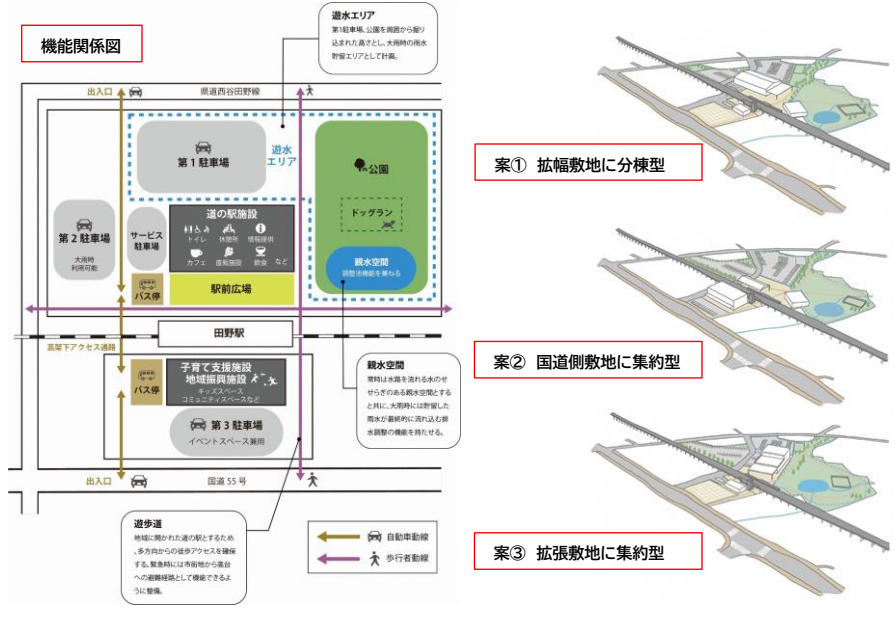
7. 概算事業費及び資金調達

計画条件、施設の計画内容を踏まえて、概算工費を算出すると、約17.6億円(用地取得費は含まず。)となります。なお、概算工費費は、社会情勢や財政状況の変化および民間事業者の提案等により変更となる場合があります。

なお、道の駅「田野駅屋」の再整備にかかる事業費に対する財源については、各種補助金・地方債・基金・企業版ふるさと納税・クラウドファンディングなど、導入機能に応じた補助事業等を幅広く検討し活用することで、**田野町の自主財源の負担を少しでも減らす方向で調査等を進めていきます。**

8. 機能関係図・施設配置の考え方・鳥瞰図

各施設の規模を検討したうえで、施設ごとの関係を機能関係図にまとめました。この機能関係図をレイアウトのベースにした上で、施設規模をふまえた道の駅施設、子育て支援施設のレイアウトを3案検討しました。今後、道の駅「田野駅屋」再整備の事業手法を検討するにあたり、行政側で一定の方向性を示しつつレイアウト案を固めきらないことにより民間事業者の知見とノウハウを活かすことが可能になることから、本計画時においては検討レイアウトを3案としました。



9. 想定される事業手法

事業手法の検討にあたっては、管理運営方式も見据えて、今後において検討する必要がありますが、サウンディング調査の結果および検討を進めてきた現時点での導入機能や施設レイアウト、他の自治体の事例等を考慮して、検討対象とする方式は「指定管理者事前選定方式」、「設計運営一括選定方式」、「DBO方式」、「PFI-BTO方式」の4つとし、さらなる検討を進めます。

10. 事業スケジュール ※令和10年度中の開業を目指します。

区分	R6	R7	R8	R9
整備・管理運営事業者選定	準備	決定・契約		
用地取得	意向調査含む			
造成工事		実施設計	造成工事	
建築工事			建築設計	建築工事